

図書館通信

令和五年
四月号



ようこそ利根商図書館へ！

世間の喧騒から離れ、ゆったりとした時間を過ごすことができる利根商のオアシス、それが図書館。

本を読むのが好きな人も苦手な人も！ 昼休みと放課後、図書館で待っています！ なお、火曜日と木曜日は司書の伊藤さんが来校されます！

ちょっと暇だな～とおもったら！ 朝読書の本が欲しいな～思ったら！ ぜひ図書館に足を運んでみてください！ お気に入りの場所になるかもしれませんよ！

(裏面に詳しい室内の様子を載せてあります！)

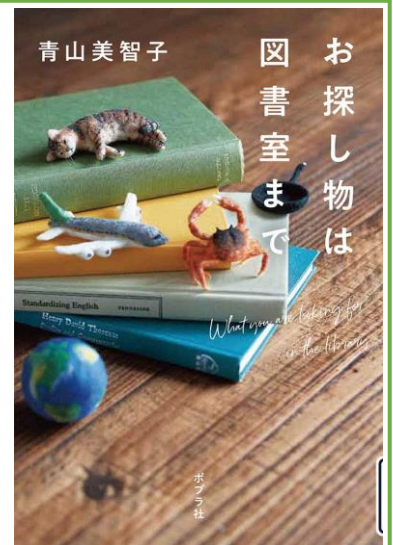
☆ 紉持教頭先生のオススメ本 紹介 ☆

「利根商業高校の司書さんは、伊藤さんです」「毎週、火曜日・木曜日にいらっしゃいますよ」そんな会話を図書部の先生方とした。お会いしたらとっても笑顔の素敵な、とっても優しい方でした!!

本は私に、自分が知らない世界を教えてくれる。見たことのない世界や国、自分が生まれていない頃の歴史や事件、出会ったことのない動物や恐竜、出会ったことのない友達のこと・・・などなど本の中には、様々な世界が存在する。

なかなか大人になるとゆっくり本を読む時間がないけれど、私は夜ベッドサイドで本の世界にとっぷり浸りながら眠ることが多い。犬が主役の『迷犬マジック』、ピンクの衣装が似合う『阿佐ヶ谷姉妹ののほほんふたり暮らし』、私が学生時代にあまり理解できなかった和歌の世界を教えてくれる『いとエモし。超訳 日本の美しい文学』、最近ではキムタクこと、木村拓哉さんの主演ドラマの『教場』も 積んである。

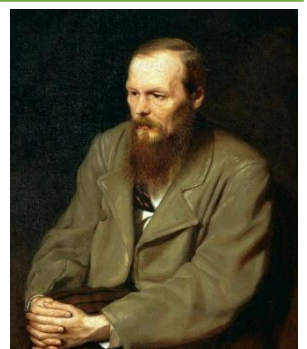
けれども、今一番のオススメは、青山美智子さん著の『お探しものは図書室まで』だ。ある町のコミュニティーハウスの図書室にいる「小町さゆりさん」が「伊藤さん」と同じ司書さん。図書室で仕事をしながら羊毛フェルトで小さなマスコットを作っている。悩みを抱えた来室者には、本のオマケと称して、来室者の抱えた悩み解決の糸口となるマスコットを渡し、生き方を教えてくれる本を紹介してくれる。悩み解決だけでなく人生も変えてしまう「小町さん」。心のカウンセリングがバッチリ。早速、図書室に行ってみよう。「伊藤さん」に会いに。



本を読むことを止めることは、思索することを止めることである。
フョードル・ドストエフスキー

※あまりにも有名な、ロシアの小説家。

『罪と罰』『カラマーゾフの兄弟』『白痴』など、著作は名作ばかり。



図書館に行ってみよう！

図書館は
3号館の
2階に
あります！



火曜日と木曜日は
司書の伊藤さんが
いらっしゃいます
(図書館は毎日開館！)

入ってすぐに
新刊コーナー



落ち着いた
雰囲気
過ごせます！



ライトノベルも
多数置いて
ありますよ！



奥の机スペースは
授業でも使うので
要チェック！

